

# 9月・10月の管理ポイント

 登録 株式会社 トモグリーンケミカル  
第170号 2021年9月1日発行  
当社ウェブサイトにバナー掲載中  
<http://www.tomo-green.com/>

残暑を乗り越えると気温が下がり、ベントグラスの生育適期がやってきます。  
更新作業を行うゴルフ場も多いのではないのでしょうか？  
芝生の夏バテ回復、根の生育がスムーズに行われるストレスの少ない環境を整えましょう。



## 根の生育しやすい 土壌環境を整えましょう

## レボ

秋は夏場のストレスでダメージを受けたベントグラスを回復させ根を育てる大切な時期ですが、近年は台風やゲリラ豪雨などにより秋にも大量の降雨が観測されています。レボの持つ高い排水性、表層土壌の水分を低めに保つ効果によって気相を確保し、根が生育しやすい土壌環境を作ることができます。定期散布を行い、土壌環境を常に良い状態で保ちましょう。

土壌水分を高めたい場合はプライマーセレクト、発生したドライスポットの治療にはアクアダクトがおすすめです。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回



## ドライの予防と治療

## ハイドレーターG

乾燥が気になる時に気軽に処理できる、粒剤タイプの界面活性剤資材です。ドライスポットの予防と治療にご使用下さい。降雨前に散布し、後散水の手間を省く省力散布がおすすめです。1mm程度の粒剤なので散布しやすく、5mm程度の散水で溶けます。安全性が高いので安心してご使用頂けます。花壇や鉢植えにもご使用頂けます。

グリーン・ティー 使用量：ドライスポットの治療 20g/m<sup>2</sup>/週 予防10g/m<sup>2</sup>/月

バンカー周り・クラブハウス周辺の芝地等 使用量：10g/m<sup>2</sup>/月

花壇・鉢植え・プランター 使用量：約10Lのプランターに小さじ1/2/月



## タンクミックスにお勧め

## グリーンシナジー

グリーンシナジーは根圏土壌の隅々まで水を届ける働きがあるので、肥料、ミネラル、糖、アミノ酸などと混用すれば、水と一緒に養分も根圏の隅々まで行き渡ります。与えた養分を無駄なくベントに届けるには、グリーンシナジーのご使用がお勧めです。経済的な資材なので、散布の度にご使用頂けます。

使用量：1~2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：100ml~1ℓ/m<sup>2</sup> 使用方法：資材の散布時にタンクミックス



## 栄養補助剤で 植物内の代謝を活性化

## ターフサプリ

肥料では補えない栄養素を芝生に供給する『栄養補助剤』です。植物内の代謝を活性化させ、芝生の健康維持やストレス回復などの効果が期待できます。肥料との混用で吸収を促進し、芝生の貯蔵養分を増やしましょう。

ベントグリーン 使用量：0.1~0.3g/m<sup>2</sup> 100~500ml/m<sup>2</sup>散布

コウライグリーン 使用量0.3~0.5g/m<sup>2</sup> 100~500ml/m<sup>2</sup>散布



## サッチの除去 土壌環境の健全化

## サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用や近接散布も可能です。土壌の透水性を改善しましょう。

微生物タイプのサッチ分解剤「サッチ・マネージャー」もおすすめです。

使用量：グリーン0.2ml/m<sup>2</sup> ラフ・FW・Tee0.1~0.2ml/m<sup>2</sup> 散布水量0.2~0.5ℓ/m<sup>2</sup>



## 土壌中の有害物質除去

## 光合成細菌

過湿状態の土壌中に発生しやすい硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく、根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は、硫化水素などを分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP（高エネルギーリン酸化合物：補酵素）などを分泌し、有用な土壌微生物の住みやすい環境を作ります。サッチ分解剤と組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

使用量：1~2ml 1ℓ/m<sup>2</sup>散布 月1~2回



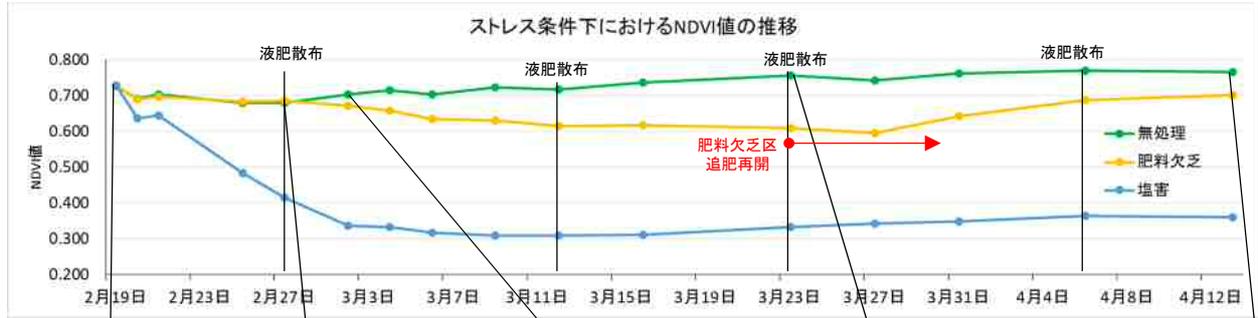
## 病害予防に

## グリーンオキシラン水和剤

グリーンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。幅広い病害に効果があり、更新作業後の保護殺菌としてお勧めです。

使用量：ベントグラス\_希釈倍率300~500倍 1~2ℓ散布/m<sup>2</sup> 日本芝\_希釈倍率500倍 1~2ℓ散布/m<sup>2</sup>

前回は乾燥、高温多湿条件下のベントグラスのNDVI値の変化について紹介しました。  
 今回はベントグラスに**肥料欠乏**、**塩害**ストレスが掛かった場合のNDVI値の変化について紹介します。



無処理区: 2/27、3/12、3/23、4/6に液肥散布



無処理区のNDVI値は安定して0.700前後で推移しています。

肥料欠乏区: 2/10(試験開始前)の液肥散布後、3/23の液肥散布まで施肥なし



肥料欠乏により0.600程度まで低下していたNDVI値が、施肥再開後には0.700程度まで上昇しています。

塩害区: 2/19に3.5%食塩水(海水を想定)を2ℓ/m<sup>2</sup>分散布



塩害により地上部が枯れNDVI値が大きく下落していますが、新芽が出てきた試験終盤には値が若干増加しました。

今回まで3回にわたって、様々な条件下におけるベントグラスのNDVI値の推移について紹介してきました。  
 NDVIは日々変化していくグリーンの状態を数値として評価できるうえ、芝生面を荒らさずに計測できる非常に使いやすい指標です。現在の土壌水分値のように、これからのコース管理には無くてはならない指標になっていくかもしれません。